

企画講座

御親謁の儀を終えて

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

この度の皇位継承は、文化14年(1817)に光格天皇が御譲位なされて以来、実に202年ぶりの御事でありました。

即位礼、大嘗祭、大嘗祭を中心とする諸儀は「御大礼」と総称されており、その多くは、神話に語られる天照大御神がお授けになった「天壤無窮」^{てんじょうむきゅう}「宝鏡奉斎」「斎庭の穂」の神勅と顕現を繋ぐものであり、皇室の悠久の伝統、我が国で最高の祭儀であります。神宮におきましては、天皇の御親拝について、皇祖である天照大御神をはじめ豊受大御神にその旨を親ら親しく拝謁・参拝されるため、特に「親謁」の二字を使って「即位礼及び大嘗祭後神宮に親謁の儀」と称しています。即位礼と大嘗祭を滞りなく畢えられた後、伊勢への行幸啓と相成り、令和元年11月21日、天皇皇后両陛下は内宮齋館の行在所にお入り遊ばされ、翌22日に豊受大神宮、23日には皇大神宮に剣璽と共に侍従の差し掛ける御昔蓋も鮮やかに内院へとお進みになり、御正殿にて御親謁遊ばされました。今回はその報告が中心となりますが、御歴代天皇の大御心についても篤く語りたいと思います。

日時 3月2日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

戦国貴族の生き残り戦略⑥

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

國學院大學図書館所蔵「久我家文書」に含まれる戦国時代の古文書を読み解くことで、戦国時代を生き抜いた公家貴族たちの苦悩と「したたかさ」についてお話をしています。第6回は文明7年(1475)の「室町幕府奉行人奉書」などを読みながら、莊園年貢から洛中の営業課税へとシフトしていく貴族収入の変化を見ていきます。なお参考文献として、岡野友彦著『戦国貴族の生き残り戦略』がご購入いただけます。

中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!
※岡野先生著「戦国貴族の生き残り戦略」は1,700円(税別)です。(吉川弘文館、2015年)

日時 3月9日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

暮らしに役立つ身近な薬草

講師 加藤 宏明 伊勢くすり本舗株式会社代表取締役・薬剤師

一昔前まで、祖父母から孫へ、親から子へと、身近な暮らしの中で薬草を摘んで活用したくすりの知識がありました。しかし、現代のくすりの概念は大きく変わり、くすりは精製され、カラーコーティングされ、知識のある専門家に聞かなければわからないものになっています。本講座では、くすりの原点をさぐり、色・味・形のある薬草を使って、皆さんに五感で感じてもらいます。加藤さんの生家は四日市で室町時代中期から続いた製薬メーカー、萬金丹などの漢方薬を作っていました。現在は伊勢で国産の薬草を使っての伝統薬の開発に力を注いでいらっしゃいます。胃腸薬の萬金丹、便秘薬のおはらい丸などのほか、三重県産の芍薬や甘草をつかった浴用剤などもあります。

加藤さんのこだわりは三重の農家が栽培した薬草で国産の生薬を作ること。
今回は皆さんに健康を保つ薬事法にふれない薬作りを体験していただきます。自分で作ったマイくすりってちょっと素敵ではないですか?

日時 3月24日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 1,050円 ビジター 1,550円(薬草代)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

伊勢西国三十三所

講師 千種 清美 文筆家・皇学館大学非常勤講師

伊勢西国三十三所観音巡礼は、「もう一つのお伊勢参り」と呼ばれ、伊勢神宮の参拝をした帰路に、観音巡礼を行うのが特徴です。番外の鳥羽青峯山正福寺から、第一番の潮音山太江寺、第二番勝峰山金剛證寺、第三番龍池山松尾観音寺と順に巡っていくと、新たな歴史の側面が見えてきます。なぜ伊勢西国が始まったのか、お寺はどのように選ばれたのか、令和のお参りはどのように行われているのか。伊勢神宮との関わりを考察します。

日時 3月27日(金) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

「春風香」を楽しむ

講師 東 堯霞 香道御家流三條西宗家直門師範

春風のこほりふきとく川岸の冬木の柳色つきにけり 藤原家良
春風を感じる季節、三つの香り「冬木の柳(スモタラ)」「川岸(マナカ)」「春風(キヤラ)」、それぞれの香りを優雅に聞きわけて、「春の芽生え」を楽しみましょう。奥深く神秘的な香りを放つお香には、香りを楽しむだけではなくさまざまな効果があることがわかっています。時には人生を大きく変えるほどの力になってくれる香り。ぜひお気軽に参加して、前向きなパワーを取り込んで、より質の高い暮らしを送りましょう。

日時 4月10日(金) 18:30~20:30 参加費 会員 5,300円 ビジター 5,800円(香錠料・食事代・お菓子代含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

漢字の旅「麗人行(れいじんのうた)」~高先生に学ぶ漢字は面白い~

講師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目するのは、杜甫の名作「麗人行」。唐代において三月三日は厄除けとして水辺で身を清める風習がありました。「麗人行」は楊貴妃の美人姉妹たちが春遊をする場面をリアルに描いています。詩の鑑賞を通して唐代の時代絵巻を見ることが出来ます。また甲骨文字「麗」の由来の考察から、美しさの本来の基準を考えてみましょう。最後に濃墨で甲骨文字と金文で「麗」を麗しく書いてみましょう。

日時 4月14日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名



古法窯づくりトンボ玉を作ってみよう

講師 藤村 茂樹 古法窯づくり(有)藤村トンボ玉工房代表取締役

トンボ玉とは穴のあいたガラス玉で、同質のガラスで作ったいろいろな模様のパーツを象嵌した玉のことをいいます。一般的なトンボ玉は、ガスや重油のバーナー・ランプ等を使い、既製の色ガラスを購入して作られたトンボ玉が主流です。しかし、正倉院の宝物などの古いトンボ玉を復元する場合は、一般的なガラス玉では限界があります。そこで藤村トンボ玉工房は先代の故藤村英雄氏の意向により昔ながらの製法にこだわって、色ガラスを作り出すところから玉に仕上げるまでをすべて炭の火で作ります。江戸時代以前の技法を再現し今も守り続けている唯一の工房なのです。古法により製作されたトンボ玉は、深みのある色合いで古の人々の愛した輝きを放ち続けています。古法窯づくり藤村トンボ玉は昭和62年2月6日に大阪府の伝統工芸品に指定をされ、二代目の藤村眞澄氏は平成22年「現代の名工」受賞、平成25年「黄綬褒章」を受賞されています。今回は先生にご無理を言って少し大物に挑戦します。ご要望の多かった帯留め用の楕円のトンボ玉を作ります。模様も花と渦巻の2種類から選んでいただけます。今までより手間や難度が上がりますので、作成時間や冷ます時間も多くなりますが、トンボ玉づくりの醍醐味を味わっていただけることでしょう。大人気の講座ですのでお申し込みはお早めに。

※帯留め用からペンダントや根付用の丸に変えることもできます。
※出来上がった作品はお持ち帰りいただくまで1時間程冷ます必要があります。

日時 4月17日(金) 12:30~16:00 参加費 会員 3,750円 ビジター 4,250円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

春の星見と宇宙の観測×理論

講師 野田 学 名古屋科学館学芸課天文主幹

4月28日には宵の明星の金星が最大光度(-4.5等)を迎えます。この頃の金星は三日月状で、望遠鏡で形を確認することが出来ます。その満ち欠けする姿は、地動説の強い観測的証拠になりました。理論と観測(実験)は科学の両輪と言われます。天文学での理論と観測のエピソードをたどります。

日時 4月23日(木) 18:30~20:30 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円(お菓子付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

本居宣長を巡る人々

講師 井田 もも 本居宣長記念館学芸員

本居宣長は誰もが知っている国学の大家です。松阪商人として名高い小津家の生まれですが、商売に関心を持たず医師となりました。内科と小児科が専門で、小児用の薬を製造して成功し家計の足しとしたという現実的な話も残っています。学問は主に夜におこなったそうで、国学者として次第に名声を得るようになります。弟子の数は480人を超え、伊勢国だけではなく他の地域にも及んで、町人、農民、神官、武士、医師、僧侶などさまざまな立場の人がいました。内宮の禰宜荒木田経雅もそのひとりです。60代の頃には名古屋、京都、和歌山、大阪、美濃などに旅行し、旅先でも多くの人と交流したと記されています。さてどんな人たちがいたでしょう。鈴好きでも知られ、駄鈴のレプリカは今の鳥根県にあった浜田藩の殿様が講義を聞く前にプレゼントしたものだそうです。学者というだけでなく多方面に活躍した宣長さんの人物像とその交友関係など、ちょっといい話をお伺いします。

日時 5月13日(水) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

宇治と山田の自治組織

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

神宮の歴史や伊勢の郷土史に関心のある方は「宇治二郷年寄」や「山田三方」という名前に出会ったことがあると思います。室町~江戸時代に神宮の鳥居前に成り立った宇治と山田の町。その自治組織の名称がそれなのですが、どこにでもある自治組織というわけではありませんでした。ここ神都ならではの独特の成り立ち、権限を有していた組織です。なんせ徳川幕府は遠国奉行である「山田奉行」をわざわざ神領のギリギリ外において監視を続けたくらいです。江戸時代の宇治と山田は政治も経済も御師たちが中心でした。その御師たちが会議制で町を運営していたのです。伊勢ならではの歴史の1ページをのぞいてみませんか?

日時 5月19日(火) 18:30~20:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

アヤメいろいろ

講師 竹澤 幸甫 嵯峨御流正教授・事務局

初夏に咲くアヤメはとても清楚で凛とした花ですが、その仲間がたくさんあっていずれがアヤメかカキツバタといわれるほど区別が付きがたいのです。実はアヤメはアヤメ科アヤメ属といって類似のものの本家本元。アヤメ、カキツバタ、花しょうぶは日本原産、イチハツは中国原産、そしてアイリスはヨーロッパ原産のものが交配されてあんなに華麗な花びらになりました。じゃあ見分け方は? そんなアヤメに関するお話をしながら、今回は豪華なアイリスをいけてみましょう。お花の指導は嵯峨天皇ゆかりの嵯峨御流教授の竹澤幸甫先生です。

日時 5月20日(水) 13:30~15:00 参加費 会員 2,200円 ビジター 2,700円(花材費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずか17文字のいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌に始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

期日 3月25日(水)・4月22日(水)・5月27日(水) 時間 各回10:00~12:30 定員 30名
参加費 各回 会員 1,550円 ビジター 2,050円(資料代含む)